

誤って深く打ち込み過ぎたソケット位置の再調整が簡単に効率よく出来ます。また、シャフト抜き後、ソケットを出来るだけ傷付けずに抜き取りたい場合にも使用可能です。

本ソケット抜き器を使用することで、安全且つ最小限のダメージでソケットを抜くことが可能です。通常、傷付けることなくソケットを抜き取ろうとすると、ソケット装着に関連する多くの要素に左右されてしまう上、一旦、ソケットが接着剤等で固められてしまうと、抜き取りは難しくなってしまいます。また、ソケットとシャフトのサイズによっては非常にタイトにフィットしてしまうため、抜き取りはさらに困難になります。こうした場合にソケット抜き器が活躍します。

注意事項

ソケットやシャフトを傷付けてしまう場合もございますので、本説明書をよくご覧頂き、注意して作業を行って下さい。場合によっては、ソケットを傷付けずに抜き取ることが不可能な場合もありますので、ご了承下さい。クラブとして使用されたソケットの抜き取り・再利用については、シャフト抜き作業の過程で加わる各種の応力や熱により、ソケットが新品時の性能を発揮できない場合があります。そのため、再利用時には接着剤による固着や歪みの矯正が必要になり、各種素材に関する知識やクラブ組立についての高度な理解が必須です。ソケットの再利用は出来るだけ避け、新品のソケットを使用されることをお勧めします。

事前の処置

シャフトやソケットに大量の接着剤が固着している場合、抜き取り作業が困難になり、作業中に破損する可能性もありますので、本器の使用前に除去して下さい。

ソケットを少しだけ温めて（温めすぎると、素材によっては昇華・燃焼しますので、温め過ぎにご注意下さい）一旦、バット側に少しだけ打ち込みます。

この際、打ち込み過ぎますとソケット内径が広がってしまいますので、十分ご注意ください。

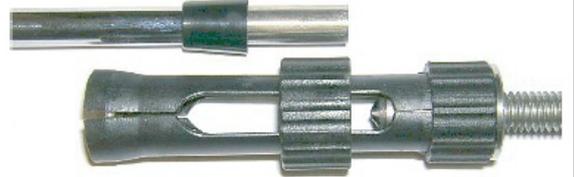
ソケットをずらしたら、付着している接着剤を除去し、本器を使用して抜き取って下さい。

抜き取り工程の中の、ステップ3において、ノブを回してソケットを抜き取る際に強い力が必要な場合は、シャフトに付着した接着剤が完全に除去されていないか、ソケットがタイトにシャフトにフィットしていることが考えられます。タイトにフィットしている場合は、抜き取り前にソケットを少しだけ温めておくと、ソケットの膨張により、容易に抜き取れる場合があります。

強引にノブを回して引き抜きますと、シャフトを傷めますので、決して行わないで下さい。



ステップ 1



ノブを回してボルト・キャップを図のように最奥部まで移動させます。ロック・リングも移動させたボルト側にスライドさせます。

ステップ 2



フレームを開いて、シャフトのチップ端を挿し込みます。ソケットがフレーム内部のキャプチャー部より内側に入るようにセットして下さい。

ステップ 3



ソケットがフレーム内部に完全に収まったら、ロック・リングをフレームのキャプチャー部までスライドさせます。こうすることで、キャプチャー内側のつばがソケットを保持します。ノブを回して、ボルト・キャップを徐々にシャフト・チップ端に当て、さらに回し続けることで、ソケットをシャフト・チップ方向にスライドさせます。

ステップ 4



ソケットがシャフトのチップ端近くまでスライドしたら、ロック・リングをノブ側にスライドさせて、フレームを開いて抜き取るか、ボルト・キャップがソケットに触れるまで、スライドさせてから機器を外すと、さらに容易に抜き取ることが可能です。